

…能登半島地震被災者支援…

## 支援物資と募金の、ご協力ありがとうございました！

5月19日(日)～22日(水)まで活動しました。

◇仮設住宅へ連日要望聞き取りと物資の届け活動  
引き続き支援に行きます。

## 6月10日(月)から13日(木)までの4日間！

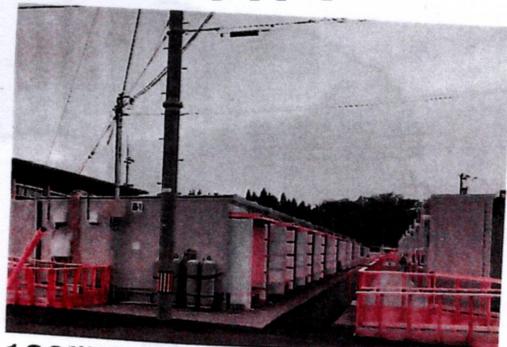
3回目の能登半島地震被災者  
支援ボランティア活動に参加  
してきました。

今回も仮設住宅入居者への要  
望聞き取りと支援物資の提供が  
主な活動でした。仮設住宅へ被  
災者が入ると、「自立」の名で食  
料支援が打ち切られます。それ  
だけに、どこでもボランティアが  
訪問すると支援物資の提供に感  
謝されます。仮設住宅に移って  
も「自立」どころか、暮らしの困  
難は変わらず、先々の不安を打ち  
明けます。

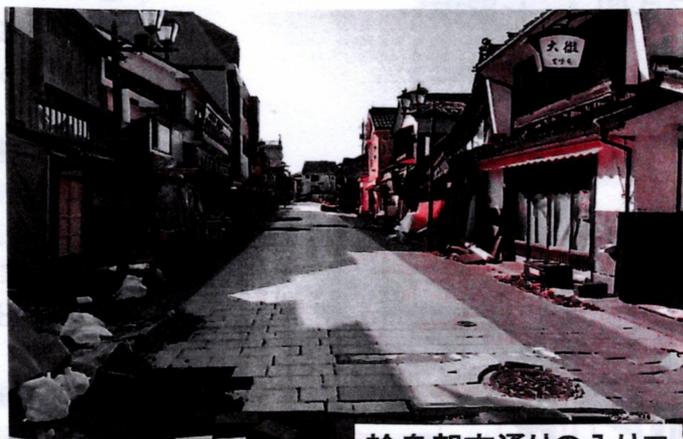
共同支援センターは、全国から  
の支援(ボランティア、支援物資)  
で運営していますが、まだまだ、  
足りません。更なる支援をお願い  
します。



中能登町の仮設住宅



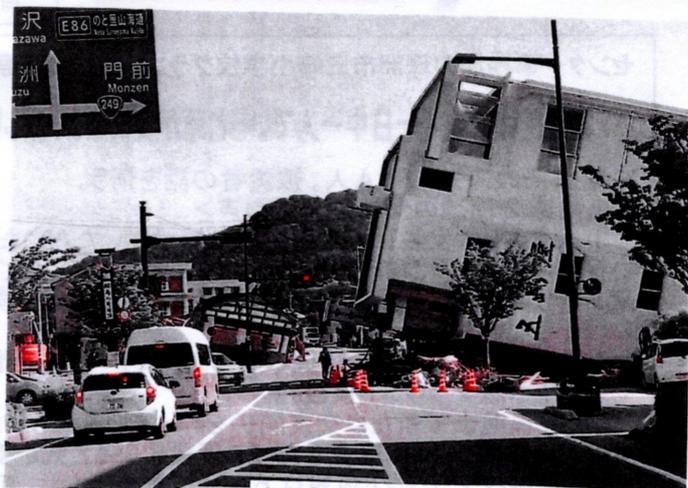
180世帯の大規模仮設住宅(穴水町)



輪島朝市通りの入り口



物資を仕分けするスタッフ



倒壊したビル、現在もそのまま

2024年6月3日

連絡先：藤沢市藤沢2-3-2

日本共産党湘南地区委員会

電話：0466-25-4776

# 仮設から寄せられた声、ボランティアの感想を紹介します



珠洲市小学校の仮設

## 川崎市議団ら7人が訪問した七尾市仮設食糧支援は大歓迎、共通して1年、2年後の仮設退出が不安

- 七尾市小島町ル部 42にある仮設—5/22(水)  
<95戸中23戸と対話し、寄せられた生の声>
- ・半壊と言われたが、もう住めないのが不服。5万円の義援金だけではどうしようもない。
  - ・仮設に来る前の避難所で親の認知症が進み、看護師のいる避難所に移すよう要望したが、かなわず、親が亡くなった。
  - ・仮設住宅に当たっても、昼間の仕事で仮設にいないために冷蔵庫、テレビ、洗濯機の受け取り印が押せず、3点セットが届くのが1か月遅れ、困った。
  - ・賃貸住宅が被災して仮設に移った場合、1年で仮設を出なければならず、金沢に行った友人もいた。

### <支援活動で感じたこと>

- ・今まで行政の人が訪問してきたことがなく、今回の訪問が初めてという声を聞いた。情報が行き届いているか心配。
- ・現在の家の片付けや改修など、先が見えぬ中で、2年後、1年後に退出しなければならないことに、一様に不安を感じていた。
- ・それでも避難所に比べ、プライバシーがある程度守られていることに感謝していた。
- ・自分たちも大変だが、奥能登はもっと大変と気づいていた。

センター事務局の珠洲市三崎小学校グラウンド仮設の視察訪問と活動報告 5/23(木)

## 集会所はなく、「一日中一人でいると頭が変になる、寂しい」と孤立感を覚える人も

◇事務局のスタッフら4人。被災者の話を伺う。

<三崎第2団地の女性被災者の声>

1人暮らしの女性に仮設の部屋を見せていただいた。4畳半程度。奥行きが浅い押し入れがあり、布団を敷いたらスペースがほとんどない。風呂も狭く、浴槽は足を折り曲げて入る感じ。洗濯物は浴室につるして換気扇をかけて乾かし、外には干さないとのこと。

「解体が済んだら金沢に住む娘の近くにアパートを借りる予定。同居はしない(三崎中学校グラウンド仮設)。

- ・仮設住民同士で新たに交友関係を作っている人もいたが、「隣近所の知り合いはなく、一日中、テレビを見るだけの仮設にしていると気が変になる」
- ・三崎中学校グラウンド仮設は60戸で集会所なし、直小学校仮設は26戸で集会所あり。この違いは何なのか?・地元での生活再建を希望する被災者が多い印象だが、解体が終わらないと、新しい生活へ気持ちを切り替えるのが難しいのが共通しているようです。



全壊した珠洲市飯田町のお寺

— 隆起したマンホール